信州・山形村 身近に見られる 野鳥MAP

Yamagata Furusato Ranger Corps

～バードウォッチングをする方へ～

村内ではたくさんの野鳥を観察することができますが、野鳥を必要以上に追ったり、周辺にお住まいの方々の迷惑になるような行為は避けるようお願いします。生き物にとっても、人にとっても気持ちの良い観察を心がけましょう。

●スカイランドきよみず

ウェヘウェー ウェー

大きさの比較

キジ（雉）
●キジ目キジ科
●全長60～80㎝　●留鳥
日本を代表する国鳥。雄は顔の赤色と派手な色合いの体、長い尾が特徴。対して雌は全体的に茶色の体で地味な印象。山形村では、人家近くの草むらなどでペアで見られることも少なくない。

ノスリ（鵟）
●タカ目タカ科
●全長52～57㎝　●留鳥
翼と喉は茶褐色で、胸元は茶色の混じった白色。腹部には濃い茶色の帯がある。山形村では、人家近くの電柱で羽を休める凛々しい姿（写真左）を身近に見ることができる。写真右はノスリの若鳥。

コムクドリ（小椋鳥）
●スズメ目ムクドリ科
●全長19㎝　●夏鳥
黒い嘴に灰色がかった体だが、頬は茶色く頭はクリーム色。翼は黒いが一部に白色が見られるなど、全体的にたくさんの色が見られる。雌は雄と異なり灰褐色。今回のYFRによる調査では、山形小学校前庭の枝垂桜にできた樹洞（じゅどう）を利用して巣を作り、繁殖する様子が観察できた。

ヤマガラ（山雀）
●スズメ目シジュウカラ科
●全長14㎝　●留鳥
灰色の翼に明るい茶色の腹部、背中と首元にも茶色が入っている。顔はクリーム色で、頭と喉は黒色。雌雄は同じ色をしている。エゴノキの実を好み、果肉を器用に取り除いて種子を食べる。

イカル（鵤、斑鳩）
●スズメ目アトリ科
●全長23㎝　●留鳥
光沢のある黒い顔と、黄色の嘴が特徴的。体は灰色で、翼と尾は黒色。翼には白い斑がある。雌雄ともに同じ色をしている。

ウグイス（鶯）
●スズメ目ウグイス科
●全長14～16㎝　●漂鳥
「ホーホケキョ」というさえずりで有名。体は茶褐色で、いわゆる鶯色ではない。雌雄ともに同じ色だが、雄のほうが雌より大きい。

エナガ（柄長）
●スズメ目エナガ科
●全長14㎝　●留鳥
小さな体に長い尾、黒色の嘴はとても短い。体は白く、尾と翼は黒色だが一部に白色が入る。肩と腹部に茶色が混ざる。雌雄ともに同じ色をしている。

オオヨシキリ（大葦切）
●スズメ目ヨシキリ科
●全長18㎝　●夏鳥
頭から背中、尾にかけて褐色。赤い口を開けて大きな声で鳴く。その騒がしい鳴き声から「行々子（ぎょうぎょうし）」とも呼ばれる。雌雄とも同じ色をしている。

オオルリ（大瑠璃）
●スズメ目ヒタキ科
●全長17㎝　●夏鳥
美しい瑠璃色の体が特徴的。対照的な腹部の白色が、より一層瑠璃色を際立たせている。雌の体は雄と異なり茶褐色。

オナガ（尾長）
●スズメ目カラス科
●全長37㎝　●留鳥
青色の長い尾が特徴。頭は黒く、腹部は白色。雌雄とも同じ色をしている。

カッコウ（郭公）
●カッコウ目カッコウ科
●全長35㎝　●夏鳥
童謡「カッコウ」にも歌われる馴染み深い鳥。灰色の体に黒い翼、目は黄色い。腹部に黒色の縞がある。雌雄とも同じ色をしている。

カルガモ（軽鴨）
●カモ目カモ科
●全長61㎝　●留鳥
水辺によく見られる。ペアや親子で泳ぐ姿が愛らしい。嘴は黒く先端は黄色。目元に過眼線と呼ばれるラインが入っている。雌雄ともほぼ同じ色をしている。

カワラヒワ（河原鶸）
●スズメ目アトリ科
●全長15㎝　●留鳥
茶色い体に淡い桃色の嘴。翼の一部だけが黄色く目立っている。

キセキレイ（黄鶺鴒）
●スズメ目セキレイ科
●全長20㎝　●留鳥
黒い頭と嘴、腹部の黄色が鮮やかな鳥。雄の夏羽は喉が黒く、冬羽は白い。雌はいずれも白いとされるが個体差がある。

キビタキ（黄鶲）
●スズメ目ヒタキ科
●全長14㎝　●夏鳥
顔と翼は黒く、喉から腹部にかけてはオレンジ色をしている。翼の一部が白く印象的。目の上には腹部と同じオレンジ色のラインがある。雌は雄と異なりオリーブ褐色をしている。

コガラ（小雀）
●スズメ目シジュウカラ科
●全長13㎝　●漂鳥
頭は黒色で喉には小さな黒斑がある。ふわふわとした白い腹部が愛らしい。

コサメビタキ（小鮫鶲）
●スズメ目ヒタキ科
●全長13㎝　●夏鳥
全体的に灰褐色の体で、腹部は翼に比べると淡い色合い。大きな目が特徴で、目の周りに白い縁取りがある。

ゴジュウカラ（五十雀）
●スズメ目ゴジュウカラ科
●全長14㎝　●漂鳥
青灰色の頭に翼、目元に黒色のライン（過眼線）がくっきりと入っている。頬や腹部は白色だが、足元と脇は茶色。木の幹を頭を下にして逆さに降りることができる。

シジュウカラ（四十雀）
●スズメ目シジュウカラ科
●全長15㎝　●留鳥
黒い頭に白い頬。喉から腹部にかけてネクタイのような黒い帯がある。翼は灰色がかった青色で、首元に緑色が入る。雌雄とも同じ色だが、ネクタイは雌のほうが細い。

ジョウビタキ（常鶲）
●スズメ目ヒタキ科
●全長14㎝　●冬鳥、留鳥
灰色の頭にオレンジ色の腹部。目の下から頬、喉にかけては黒い。黒い翼のなかに白色のワンポイント（斑）がよく目立つ。雌は褐色だが、雄と同じく白色の斑がある。

ダイサギ（大鷺）
●ペリカン目サギ科
●全長90㎝
大きな体と長い首。長い脚で水の中に立つ姿が馴染み深い。国内で繁殖するチュウダイサギと、冬鳥のオオダイサギがいる。

ハクセキレイ（白鶺鴒）
●スズメ目セキレイ科
●全長21㎝　●留鳥
白色の顔に、黒色の過眼線が印象的。頭と胸元は黒色で、長い尾をリズミカルに振りながら、街中の駐車場などをスイスイと歩く姿をよく見かける。

ヒガラ（日雀）
●スズメ目シジュウカラ科
●全長11㎝　●漂鳥
黒い頭には小さな冠羽がある。頬は白色で、腹部は淡い灰色。喉の黒色はシジュウカラのネクタイと比較して、蝶ネクタイと呼ばれている。雌雄とも同じ色をしている。

ホオジロ（頬白）
●スズメ目ホオジロ科
●全長17㎝　●留鳥
その名の通り頬が白色をしている。黒色の過眼線のラインを挟んで、頭は白色。頭頂部と腹部は赤茶色。樹木の先端など目立つところでさえずることもある。雌は雄に比べて色が薄い。

ミソサザイ（鷦鷯）
●スズメ目ミソサザイ科
●全長11㎝　●漂鳥
雌雄ともに体全体がこげ茶色をしている。短い尾をピンと立てている様子が愛らしい。小さな体に似合わず大きな声でさえずる。

メジロ（目白）
●スズメ目メジロ科
●全長12㎝　●留鳥
黄緑色の体で、目の周りに白い縁取り（アイリング）が特徴。花の蜜を吸う姿を見かけることも多い。雌雄ともに同じ色をしている。

モズ（百舌）
●スズメ目モズ科
●全長20㎝　●留鳥
茶色の体で背中は灰色。雄は目元に黒い過眼線がある。鋭い嘴で獲物を捕らえる姿から、小さな猛禽と呼ばれる。縄張りを宣言するモズの高鳴きは、秋の季語になっている。

アカゲラ（赤啄木鳥）
●キツツキ目キツツキ科
●全長24㎝　●留鳥
頭と翼は黒色で、腹部は灰色。顔と肩にかけて黒色のラインが入り、尾には白色の斑がある。頭と腹の一部に見られる鮮明な赤色が美しいが、雌の頭は赤くない。

留鳥（りゅうちょう）：一年中同じ場所にいる鳥　漂鳥（ひょうちょう）：夏は高地で繁殖し、秋～冬になると平地に降りる鳥　夏鳥：夏に見られる鳥　冬鳥：冬に見られる鳥

一般的な特徴をまとめたものです。詳細は図鑑などを参照してください。

写真：務臺 明

山形村で身近に見られる野鳥

およそ25㎢という面積のなかに、山地や集落、肥沃な農地が広がる山形村。慈眼山清水寺やスカイランドきよみずを擁する清水高原は、最も標高の高いところで1,748mまで達します。人々の暮らす里山から山深い清水高原まで、村内には様々な自然環境があり、そこに暮らす生き物たちがいます。本パンフレットでは、令和３年５月～10月にかけて実施したYFRのバードウォッチングによる調査結果等から、今現在村内で身近に見ることができる野鳥についてご紹介します。